

平成24年(2012年)7月11日

西宮市長 河野 昌弘 様

西宮市青少年問題協議会
会長 河野 昌弘

成人式のあり方について(答申)

平成23年(2011年)7月26日付、西青推発第11号で諮問のあった標記については、別紙のとおり答申します。

目 次

はじめに	1
第1章 成人式の起こりと移り変わり	
1. 成人式のはじまり	1
2. 成人式への参加者の意識の変化	2
第2章 成人式の課題	
1. 成人式の意義	4
2. 地域とつながる西宮市の取り組み	5
3. 若者の参加への課題	6
4. 成人式についてのアンケート調査から	6
第3章 成人式の充実と進展を願って	
1. 成人式の今日的意義	9
2. 成人式の内容	9
3. 成人式の規模	10
A 集中開催方式	
B 分散開催方式	
小学校区単位	
中学校区単位	
行政区単位	
第4章 平成26年度の「成人式」について	11
(参考資料)	
資料1. 文部省 文部事務次官通達「成人の日」の行事について	14
(昭和31年12月10日)	
資料2. 平成24年「成人式」に関するアンケート	15

平成23・24年度西宮市青少年問題協議会委員一覧表(平成24年7月1日現在)

これからの成人式のあり方について（答申）

はじめに

西宮市青少年問題協議会は、2011（平成23）年7月26日、西宮市長から「成人式のあり方についての諮問書」を受け、今後の成人式のあり方について5回にわたって会議を開催し、また実際に成人式を視察し、協議をおこなってきた。

諮問の内容は、

- (1) 市の主催する成人式がはじまり60余年が経過したが、今日の急激な社会情勢や若者の意識の変化に鑑み、成人式のあり方を再検討する必要がある。
- (2) 「荒れる成人式」の様相を呈する他市町村の成人式をみると、かえって若者のモラルの低下を露呈する場という印象がもたれ、若者への誤った理解が懸念される。
- (3) 西宮市の新成人に1会場に集まってもらって開く成人式から、「地域の人たちが地域ぐるみで新成人を祝い」、新成人も「地域あげてのお祝いを受けながら、今後の人生の歩み方を考える場」となる成人式ができないか考える。
- (4) これまでの成人式の実施方法を改善して、「できうれば平成26年1月の成人式」から実施できないか。

の4点であった。

当協議会は、この4点について、以下の通り答申する。

第1章 成人式の起こりと移り変わり

1. 成人式のはじまり

国民の祝日に関する法律（昭和23年7月20日公布・施行、最終改正平成17年5月20日公布・平成19年1月1日施行）では、「成人の日」を「一月の第二月曜日」とし、「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます。」としている。1999（平成11）年までは周知のように「1月15日」が成人の日であり、元服の儀が小正月のこの日に行われていたことによるといわれている。

江戸時代の元服は、庶民にも広がり、男子は月代（前髪を剃ること）、女子は丸髷、両輪などの髪型、化粧など、大人の容姿が許され、成人を意識させる儀式であった。

明治以降は元服の儀式も衰退し、また20歳には徴兵検査が行われ兵役の義務が課せられたこともあり、成人の儀式は行われなくなった。なお、「成年」を20歳としたことは、明治9年の太政官布告による。但し、衆議院議員の選挙権は25歳以上とされ、成人として統一された年齢はなかった。

戦後、国民の祝日に関する法律が制定されたが、「成人の日」は当初の原案

にはなかった。民法や公職選挙法において「成年」は20歳に統一されたが、成人になる通過儀礼の必要性は意識されなかったのだろう。しかし、主権者としての国民の意識づけ、また人生の区切りをつけさせることが必要だとの認識から、「成人の日」を設けるべきであるという意見があり、制定に至った。

全国では1949(昭和24)年から記念行事が行われたようだが、西宮市の第1回「祝賀及記念行事」は、1950(昭和25)年1月15日、津門小学校で開催された。およそ300名が集まった。ただし西宮市教育委員会『昭和24年度教育年報』によると、「満十八歳の男女青年」が対象とされている。祝日法が「おとな」としか規定していないため、中学や高校卒業後、多数が就職していったこの時代は、18歳が最適とされたのだろう。1955(昭和30)年まで18歳対象がつづいた。

2. 成人式への参加者の意識の変化

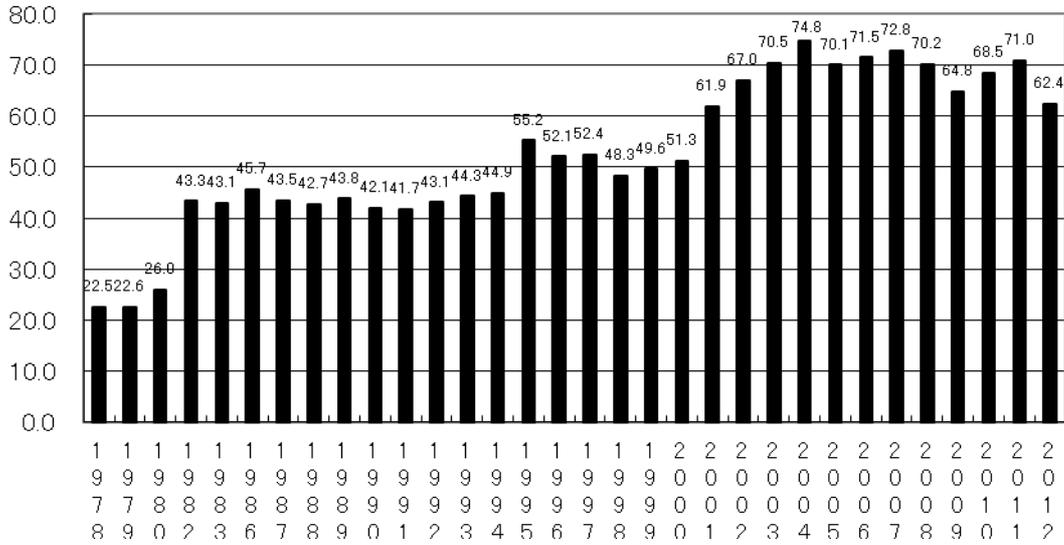
成人式への参加者数から、成人式の若者にとっての意味を考えた。

成人式が始まった頃は参加者が少なかったため、1956(昭和31)年に文部事務次官通達が市町村に対して出され、積極的な開催と新成人の式典への参加を促すような指導が行われた(資料1)。国民の意識や関心も薄く、また戦禍の中で思春期をすごした新成人が、自分たちの世代から始まる祝賀行事を簡単には受け入れられないという感情を持っていたのではないかと想像できる。また、1960年代には、新成人を新しい有権者と捉え、演説と受けとめられるような来賓の話や祝電披露があったという他県の例もあり、開催の目的を明瞭に示せないままに参加者の意識とのミスマッチが続いたと言えよう。

1960年代半ばから成人式への参加率が向上する。これには、経済成長の時代に入り、式場となる公共施設の充実、式典への経費(ゲストや記念品の向上)の増加、参加者側の要因としては着物が購入できるなど家庭経済の向上があげられよう。しかし、この参加率の向上は、当然のことながら目的意識をもった参加者だけでなく、式典に入らず、記念撮影や同窓会的なおしゃべりの場ととらえる者や、記念品だけもらって帰る者もでてくることにつながった。

参加率は一旦下降気味になるが、1982(昭和57)年頃から上昇する。レンタル衣装の拡がりも一因し、女性は着物が多数を占めるようになり、男子参加者の和装も始まるようになる。華美な服装ができること、同窓会的な集まりの場であることが、出席率を一定の高い数値でとどめておく要因であることに違いはない。

西宮市成人式参加率



西宮市の近年の状況は、2001（平成13）年から6割を超え、以後6割後半から7割を前後する高い参加率を得ている。

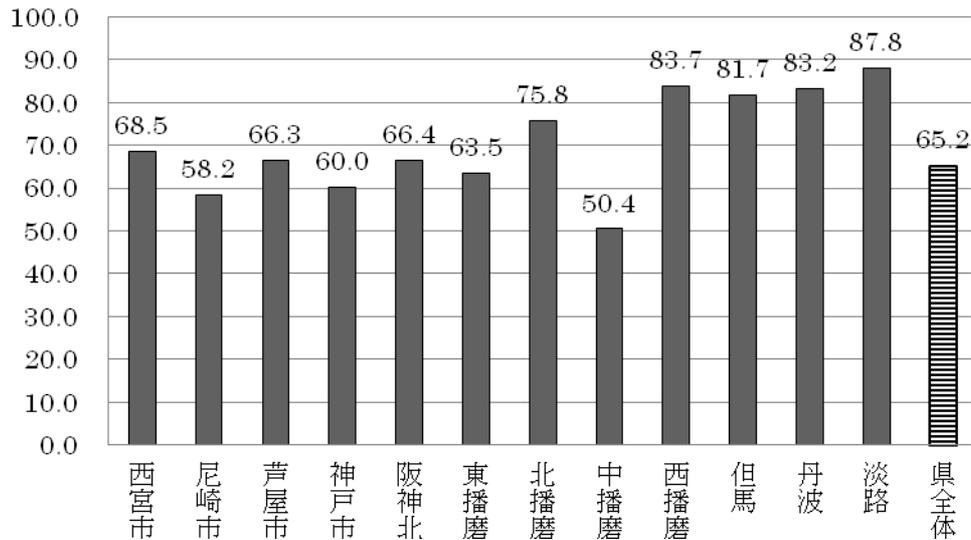
阪神大震災時、中学生だった若者が成人する年であり、惨事のなかで共に辛苦やそこからの立ち直りを支え合った若者が、しばらくぶりに出会うことに相当の意味を感じてくれたのではないかと察する。若者たちが20歳に至るまでの苦労を同世代で確認しあい、互いによくやってきたと励ましあうという意識が成人式へ集う目的となっているということも考えられる。

また、参加者の積極的な参加意識とともに、主催者側が、1995（平成7）年以降、実行委員会を組織し、若者の意識を汲み取りながら計画や準備をしていった賜物であることも指摘したい。

さらに、同年からは会場を西宮市民会館（アミティホール）から兵庫県立総合体育館に移し、対象者全員を館内に収容はできないにせよ、駐車場の十分な確保や余裕ある外部スペースができたことも参加者の増加の要因ではないかと考える。

以後、参加率は上昇し続け、2004（平成16）年には74.8%という最高の参加率となる。

2010年兵庫県地域別成人式参加率



県下の成人式への参加の状況を見ると、都市部では参加率が低く、西播磨・但馬・丹波・淡路の各地域は、80%を超える高い参加を得ている。高い参加率の地域の市町は、対象人員が1,000名以下である。小規模地域では、2~3の中学校区が集まり、地域性が強く、顔なじみが集う場としての意義が感じられ、参加意欲につながっているのではないと思われる。

第2章 成人式の課題

1. 成人式の意義

1951(昭和26)年1月、東北地方の新聞は「(成人を)如何に祝うべきか」と題して、市民にハガキ回答を求めた¹。その結果は、

- ・文化行事を加え、郷土文化推進者としての自覚を持たせる。
- ・形式は市町村民こぞって祝ってあげるものにし、ことに母親達が温かく世話もつとめ、自ら余興の一つも買って出る。
- ・郷土の産業・財政・歴史その他の調査資料を贈って、郷土の認識を深める。
- ・この行事を形式的なものに終わらせず、地域の特殊性を加味した永続性あるものとし、市町村中心、各団体・会社などの積極的な後援を望みたい。
- ・講演会や各地の名士の豊富な体験談の発表
- ・郷土出身の有識者や先輩の帰郷を求めて、老若男女一堂に会して人生を語り合う。いわゆる郷土週間(オールド・ホーム・ウィーク)の催しを行う。
- ・村落の特集、一月の村報に成人になった者の部落・氏名・職業を掲載して

¹ 『河北新報』1951年1月16日付。

祝意を表し、村民に周知させる。

- ・部落の祝賀会や公民館主催で部落毎に招待し茶話会を開く。成人の青年男女には特に余興を注文する。

などが寄せられた。全国紙も、成人としての責任の自覚を促す機会を第一としながら、次のように報じている²。

そこで社会に対する責任とは、余り大きな範囲で考えずに、自分のおかれている部落とか、村とか、町とか、あるいは学校とか、工場とか、会社とか、そういう身の回りに近い共同社会のことを考えることが大切である。これを地域社会と言い換えてよかろう。そういう社会の一員としてなすべきことは、社会のためになること、積極的にその社会にプラスを加えるということではなければならない。農村を守るべき男女の多くが都会に集まったとしたら、どうということになるであろうか。共同社会にプラスに働くということは、各人がその持ち場、持ち場に従って責任をはたすことによって社会を立派に動かすことである。

これらの意見は、成人に期待する「国家の一員としての自覚」は、まずは地域社会の一員であることを認識することから始まり、成人式はその地域社会という人口数万人までの、顔の見える関係の社会のなかでこそ意味あるものとなるという指摘であった。成人を祝うことを機会に村ぐるみで懇親会を行い、そのなかで成人も余興をして存在感を示せと言うようなものである。そこから発展させ、地域を広げ、公民館ぐらゐの単位で地域活動の一環として行い、成人だけの行事にとどめておいてはいけないという意見である。

2. 地域とつながる西宮市の取り組み

1950（昭和25）年、西宮市で成人式の行事がスタートした年、およそ300名の参加者があった。1952（昭和27）年の成人式は、西宮北口の日芸会館で午後1時から行われている。「先着五百名様には記念品を呈上」と市政ニュースは紹介しているが、およそ500名余りの参加対象者であったと推測できる。

2012（平成24）年の参加者は2,736名であり、この60余年で10倍近くに増加し、大規模化してきた。これは人口増加とともに、合併を伴う市や町の拡大があり、地理的な広域化も課題となり、ますます地域社会とはなれた成人式と感じられるようになってきたのであろう。

戦後のベビーブームの世代が成人式を迎え、新成人が急増した1968（昭和43）年から、対象地域を決めて、午前と午後の2回実施を行っている。これは1974（昭和49）年まで続いた。

² 『朝日新聞』1951年1月15日付。

また、1969（昭和44）年から1973（昭和48）年まで、市全体の成人式と同時に、11～13カ所の公民館で「20歳青年の集会」が成人式前後に日をおいて実施されている。「話し合いやレクリエーションを通じて仲間づくりをはかろう」（1969年）「とにかく考えごと、悩みごとが多い若もの同志が、お互い納得いくまで話し合い、歌やゲームなど楽しいつどいを通じて、“青年の輪”を広げよう」（1973年）などの目的を持って実施されている。内容は、ゲーム・フォークダンス・歌・映画などの活動的な行事と、講師を交えての茶話会など和やかな雰囲気の中で行っている。

1969（昭和44）年は、西宮市民会館で2回実施しても、9,000人を超える新成人を収容することはできなかった。公民館での開催は、そうしたなかで、より多くの新成人達を地域で祝ってあげようという取り組みである。内容も、青年達が主人公として活動したり、話し合いをしたり、儀式的な市全体の成人式に欠けているもう一つの成人式の意味を具現化したものと考えられる。

3. 若者の参加への課題

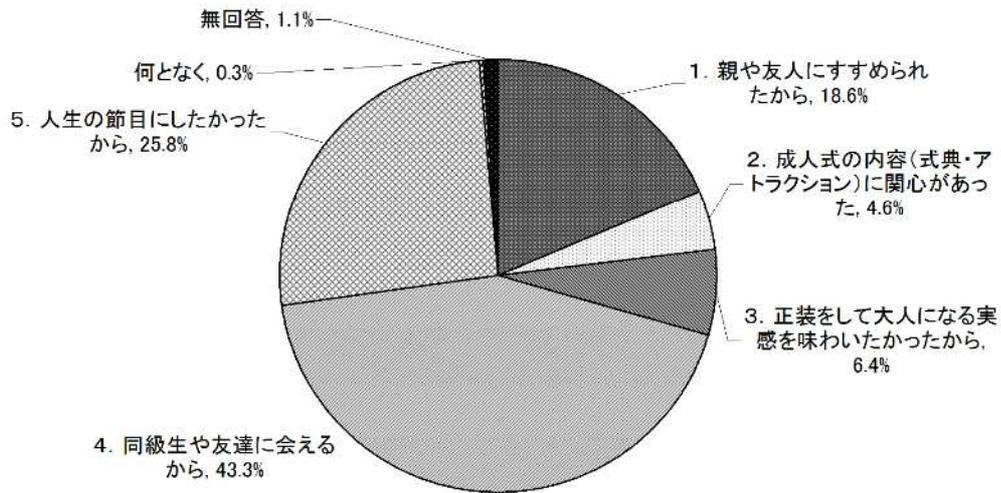
2000（平成12）年ころから、一部の市町村での「荒れる成人式」が話題となり、式典を妨害した新成人を告訴するという自治体も出ている。これは、「新成人の度を越したはしゃぎ」と同時に、大規模化され、儀式全体の運営と新成人との繋がりが薄くなった「形式的な式典」との産物と解すべきである。本市では、比較的平穏に式典を粛々と進めているが、新成人の節度ある意識の現れとともに、会場外での同窓会的な出会いも大事にするなど、弾力的な運営がその背景にあるからと言えよう。

また、高い成人式への参加率は、着物を早くから用意し、家族もその日を待ちながら迎え、それが参加への意欲を高め、新成人自身や家族にとって貴重な日となっていることも背景にある。その点は、どのような式典・会場のあり方が模索されても、大事にしなければならない。

4. 成人式についてのアンケート調査から

2012（平成24）年1月9日に開催された成人式において、新成人にアンケートをとった（資料2）。当日は、2,736名の新成人に配布したが、回収できたのは360名であった（回収率13.2%）。

Ⅲ 成人式に参加しようと思った理由は？ (複数回答あり)

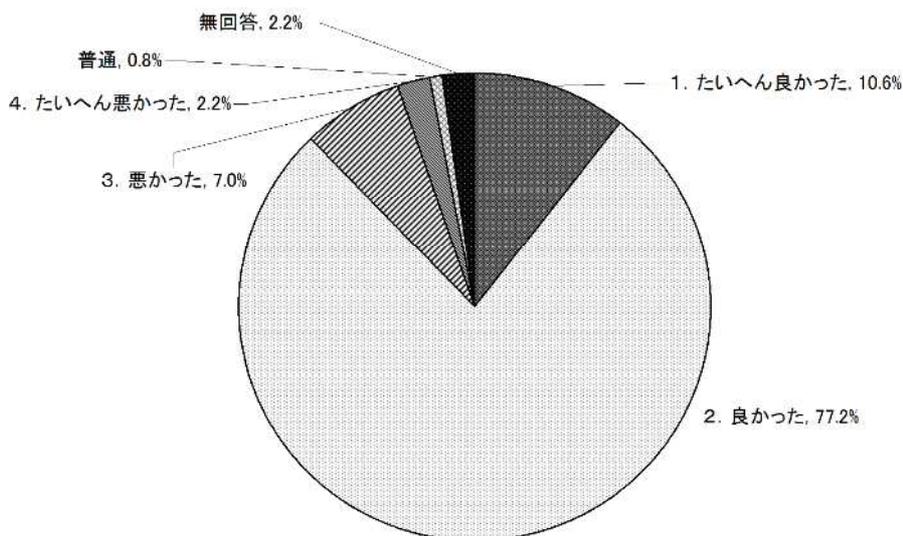


成人式への参加理由は、「同級生や友達に会えるから」が43%と半数近くを占めている。成人式の意義からすれば副次的なものであるが、意識として懐かしい出会いの場として新成人にとらえられていることは避けられない。

「人生の節目にしたかったから」という答えも26%ある。若者たちが「成人」をどのような節目にとらえているかは明らかにできなかったが、儀式をみずからの人生に意味づけようとしていることは確かだ。

「親や友人にすすめられたから」も19%あり、そのことが成人式に参加することを後押ししていて、新成人への案内だけでなく、市全体での広報活動も効果があることを示している。

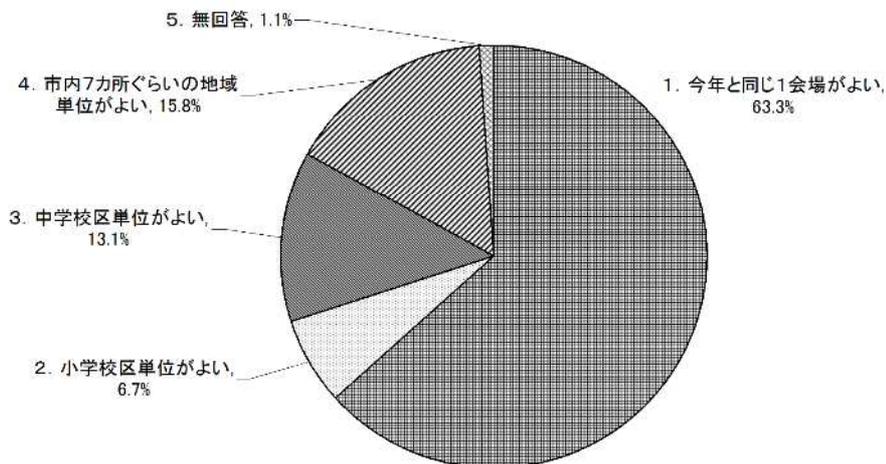
Ⅳ 成人式の印象は？



成人式の印象は、88%が「良かった」という受け止めをしている。実行委員の方々へのアンケートからは、「市長のお話やダイアンさんの漫才に、多くの方が聞き入っておられて予想外でした。」との声も寄せられているが、一方

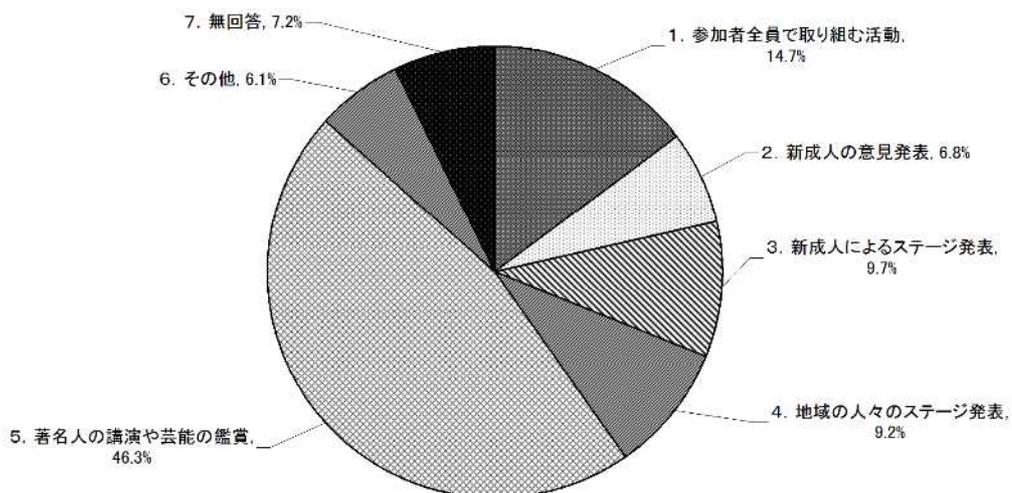
「会場内のざわつきが気になった。」「私語が気になりました。注意をしない我々も悪いのですが。」と問題点も指摘している。「子どもの太鼓をたたく姿がかわいかった。」「ボランティアの方々にもたくさん参加していただき、大変嬉しかった。」という声もあった。

V- (1) 現在の1カ所での開催についてどう思いますか。



成人式の開催単位はどの規模が適切かの質問には、長年定着してきた1カ所開催が63%から支持された。次いで「地域単位」「中学校区」「小学校区」という順であった。山口中学校・塩瀬中学校卒業生は、58%が「1カ所」、30%が「中学校区」を支持しており、会場から遠隔地であっても「1カ所」開催に不都合ではないという印象も受けとれた。

V- (2) 成人式のプログラムとして、どのようなものがよいと思いますか。
(複数回答あり)



1976（昭和51）年までは、講演とともに地域の市民劇場、中学・高校・大学のブラスバンドなど、地域の方々が出演いただくプログラムが組まれてきた。現在も、オープニングプログラムで地域の方々に出演いただいているが、新成人のアンケートからも、「著名人の講演や芸能の鑑賞」などとともに「地域の人によるステージ発表」を期待していることがうかがえる。また、「参加者全員で取り組む活動」「新成人によるステージ発表」「新成人の意見発表」という新成人が主体的に参加するプログラムを32%が期待していることは、祝福される対象としての参加だけでなく、主体的に成人式とかかわりたいと望んでいるともいえよう。

第3章 成人式の充実と進展を願って

1. 成人式の今日的意義

今日の社会情勢のもとで、安定した就労が実現できていないことは、若者の意識や未来観、社会観を明るくしたものとしていない。厳しく見つめれば、大人たちが自分たちの目先の安定を図るために、若者の可能性が開かれるような社会を築いてこなかったと言えるだろう。

成人式が始まったころは、新成人のほとんどが社会人であり、すでに彼らは職場や地域社会で重要な役割を担い、またそれを自覚できた時代であった。今日の新成人の多数は学生であり、また不安定な就労についている若者も多い。そうした点からすれば、成人式は将来を担う若者の夢や苦しみの声を聞く場であり、その声を吸収しながら共に未来の社会を描く場でもある。それが一時の場で実現しなくても、大人達は若者の声を聞くことを約束し、若者も社会に目を向け積極的な提言と態度を誓う場でありたい。

そして、同年齢の同窓会的な場であることは避けられないわけで、そうした若者の姿勢を互いに励まし合う場と積極的にとらえたい。

2. 成人式の内容

以上の成人式の意義の再考の上に立って、成人式の内容を考えると

地域の大人が、若者と共に、よりよい社会をつくることの表明

成人となった若者の「思い」や「主張」の表明

地域社会の積極的な担い手として迎え入れる歓迎の儀式

が組み込まれるものとなるだろう。具体的にみれば、は地域代表の市長から若者へのメッセージ、は新成人から募った夢や悩み、困難を乗り越えた話など生の声である。は地域社会からの祝福の思いを込めたプレゼントであり、大人として迎え入れる歓迎の作法とも言えよう。地域に伝わる伝統行事もそうした一つであるし、少し先輩の世代からの「共にがんばろう」というパフォーマンスや小・中・高校生など年下の世代からのプレゼントもあっていいだろう。

地域の人々が工夫し、新成人のために何かをしてくださることが、何より大切なことである。

3. 成人式の規模

西宮市の成人式は、300名ほどの新成人の出席者を予定した行事として始まった。鳴尾・塩瀬・山口3村が合併するのが1951（昭和26）年1月であり、市域も狭かった。今回の市長の諮問にあるように、「地域の人たちが地域ぐるみで新成人を祝い」、新成人も「地域あげてのお祝いを受ける中で、今後の人生の歩み方を考える場」となる成人式として、また「顔が見える」式という点からは、その程度の規模が適切だと考える。西宮市の現況から考えれば、中学校区を単位とする成人式がそれに近い規模であると察せられる。

以下、本協議会で想定した実施単位ごとの課題を列挙する。

A 集中開催方式（現行の兵庫県立総合体育館）

メリットとしては、成人式に関わる人々や関連する経費を1カ所に集中でき、会場設営、ゲストの招聘などが容易となる。また市民を代表して市長が直接新成人へのメッセージを伝えることができる。会場が住宅地ではなく、交通渋滞や騒音被害は発生しにくく、警備上の問題も生じにくい。新成人にとっては、出身学校等を意識しないで式に参加することができる。

一方、およそ4,400人もの新成人全員を収容する施設は市内にはなく、現状のように、会場内に入らない人々がいることや必要に応じて入場制限をすることで運営ができるという矛盾をかかえている。また、本年の成人式も大きな問題は起こらずに挙行できたが、話を静聴しないなど参加する態度に問題がないわけではない。

したがって、本市では1会場で、新成人対象者全員を収容できる施設はなく、考えるなら甲子園球場の銀傘の下しかない。しかし、1～2月はグラウンドメンテナンスの重要な時期で、グラウンドを使用することは困難である。また、観客席も正装した参加者が座るには相当清掃が必要となる。エレベーターも設置されていないので車椅子への対応ができない、茶席や模擬店、着付け直しコーナーなど従来行ってきたことが可能なのか等、球場側との調整も難しいようである。

B 分散開催方式

小学校区単位

市内には40の小学校区がある。新成人の数は瓦木小学校区55名から今津小学校区237名までで、平均は約112名である（以下2011年4月30日現在の数）。実行委員会を組織したり、関係団体に援助をいただければ、身近な人達なので一番親しみが湧き、地域の一員であるという自

覚や責任感は感じやすい。しかし、私立小学校出身者や、小学校にいい思い出がない人にとっては参加しにくいだろう。また、設備が小学生向きなので、正装した成人には会場としては不向きである。開催場所は体育館が予想され、暖房や下履きへの対応、和装に対する便所の対応など設備の課題は大きい。また、市の事業から地域事業へのバトンタッチがスムーズにできるかどうかは課題となる。

中学校区単位

市内には 20 の中学校区がある。新成人の数は西宮浜中学校区 77 名から甲陵中学校区 413 名までで、平均は約 224 名である。ほぼ成人式開始当時の規模である。

小学校区と同様の長所や短所が考えられるが、規模としてはもっとも適したものであろう。ただ、私立中学校出身者のなかでは、3.8%と最も低い支持であり、小学校では繋がりあっても、中学校区になると公立中学校出身者同士が固まり、孤立するという懸念があるのかと察する。また、小学校区は地域に実施主体なる関係団体があるが、中学校区となるとそれらの団体が共同して取り組んでいただくこととなり、企画運営など新たな組織づくりを依頼しなければならないこととなるので、非常に難しい。

行政区単位

7 ケ所の行政区分がある。新成人の数は山口ブロックの 171 名から鳴尾ブロックの 997 名までで、平均は約 639 名である。会場は、西宮市民会館（アミティホール）、西宮東高校ホール（なるお文化ホール）、西宮市甲東ホール、西宮市山口ホール、西宮市立勤労会館などの公共施設や、市内には 10 大学があり、それぞれに会館やホールを有している。成人式会場の施設としては最適である。また、地元の生徒や大学生の協力が得られれば、若者による成人式の運営や、地元の高い文化・芸術鑑賞なども期待できる。

ただ懸念材料として、鳴尾ブロックにつづき、本庁北ブロック 992 名、本庁南ブロック 870 名、甲東ブロック 703 名と規模が大きく、会場が確保できても、周辺での交通渋滞等の課題は、兵庫県立体育館を会場とするより大きな問題となる。また、大学等の施設はそれぞれの使用規程があり、新たな制約を参加者に課すことも考えられる。

第 4 章 平成 26 年の「成人式」について

以上の検討の上にたち、2014（平成 26）年 1 月に行う新しい成人式について、その具体的な改善の可能性を考えた。

基本的な方向としては、より小さな単位で、新成人が「あの人たちに祝ってもらってうれしい」と感じるような、「顔の見える」成人式への移行が望まし

い。しかし、これは地域の関係団体や新成人の理解と協力を必要とする。また、人生にとってたった一度の成人式が、地域の取り組み方により左右されはしまいかと、現時点では一抹の不安も感じる。

地域活動の実情を把握するため、市は2011（平成23）年12月、地区青少年愛護協議会にアンケートをおこなった。その中には、「活動を推進していくための人手が足りない」「祝い方に地域差が出る」という各地区の悲痛な声が寄せられた。一方、「条件を整えば、地域開催したい」という一部の声もあるが、市全体で考えると、理念としては理解されても、地域の方々が取り組みに積極的に関わっていただくことが可能なのかという不安がある。

したがって、2014（平成26）年と年次を切って改善実施を急ぐことなく、地域の方々や若者・新成人の意見を集約し、地域での成人式への移行を模索しながら、一方では、現在の形の成人式においても、積極的に地域の方々の出番や新成人の声をアピールする場を採り入れるように具体化すべきである。そのなかから、地域の方々が関わっていただきながらどのような成人式ができそうか、その理想を描いていけるのではないかと考える。

本協議会における議論のなかでは、現行どおり、兵庫県立体育館での1カ所開催を継続したとしても、次のような具体的改善ができるのではないかと考えた。

新成人が主体的に取り組むという点をさらに重視して、実行委員会による運営だけでなく、新成人が人生の節目としての思いや主張、個人・グループによる発表など積極的にアピールできる場を設けてはどうか。

実行委員会のメンバーに、新成人・若者だけでなく、地域の方々にも加わってほしい。

地域が新成人を祝うという主旨からすれば、地域の文化活動をメインにすえ、地域の祝い方を工夫すべきである。わがまち西宮への郷土愛が芽生えるという点からも、西宮に根付いている傀儡人形劇、能楽、まちかどコンサート、新体操、チアリーディング、和太鼓、オーケストラ、合唱、落語など活躍している人たちが多く、新成人にアピールする「ふるさと人材」は豊かである。「メイド・イン・西宮」を刻んでいただく最適の機会であると考ええる。

体育館という施設の機能を最大限に生かし、フロア中央にステージを設けて、身近なところで話を聞く、文化的・芸術的、体育的な演技を鑑賞する、演じる人たちと新成人の方が交流するという企画も創造できるであろう。また、新成人一同が全員合唱をしたり、晴天であれば屋外広場に集合し風船に願いを込めて飛ばすなど、心を一つに合わせるような活動も工夫できると考える。

かつて西宮市でおこなわれていたように、中央での開催と同時に、地域や自治会単位でも新成人を祝うような工夫ある取り組み、あるいは地域や自治

会活動の行事の一局面に新成人を意識的に参加させる機会をつくりといた、地域の顔の見える取り組みを行ってほしい。

成人式を、新成人のためだけの行事と考えるのではなく、小学校で行われている「2分の1成人式」や、子ども・若者と大人・老人など世代間の交流とも関連づけて、その意義が見直されるべきである。

最後に、市長ならびに関係部署が、以上の当協議会答申を参考とし、さらに創意をこらし、地域や成人の方々と手をたずさえ、地域づくりの観点から成人式の改善に取り組んでいただくことを切望するものである。

資料 1 : 文部省 文部事務次官通達「成人の日」の行事について

昭和 31 年 12 月 10 日

(1) 「成人の日」の式について

趣 旨 「成人の日」の式は、成年に達した男女青年の新しい門出を祝福するとともに、成人になろうとする青少年にもその喜びを分かち、将来の幸福を祈念する厳粛であたたかみのあふれたものにする。

行 事

ア 主 催 市町村教育委員会、市町村とし、その他の関係の機関、団体等これらに加わることが望ましい。

イ 会 場 会場は、行事が効果的に実施できる適当な施設、例えば公民館、学校、その他とすること。

ウ 参加者 該当者（成人に達した者・満 20 歳）、義務教育終了期から成人に達するまでの青少年及び一般成人とすること。

エ 記念品 「成人の日」に記念品を贈る場合は、成人に達した青年の門出を祝福し、また、青年期に入ろうとする青少年を励ますにふさわしい成人手帳、青年手帳、その他適当な物品とすること。

(2) 「成人の日」の記念事業について

趣 旨 「成人の日」の感激を記念するために、それぞれ郷土の実情に即した適切な記念事業を自主的に計画実施し、一層この日を意義あるものとする。

事 業

ア 文化に関する事業(学級講座の開設、芸能祭、映写会、討論会、展覧会等)

イ 体育に関する事業(健康診断、体力検査、体育大会、その他)

ウ 産業に関する事業(品評会、植林、開墾等)

行事を行うにあたっては、市町村成人の日運営委員会等を設けて適切な修行時の運営を期することが望ましい。

行事を単に一時的なものに終わらせることなく、これを機会に事後引き続いて、自主的に心身の修練に努めるとともに公民としての権利と義務とに自覚をもつようにしたい。

資料2：平成24年「成人式」に関するアンケート

ご成人おめでとうございます。

西宮市では、1950年に成人式がはじまり、今年で62回目の成人式となりました。この間、18歳で実施したり、午前・午後と2回に分けて行ったり、市内の各公民館で「つどい」を実施したり、市民の皆さん、とりわけ新成人となられた方々のご意見を聞きながら開催してきました。

そこで、これからの成人式の開催方法などについてアンケートをお願いし、今後のあり方を考える重要な資料とさせていただきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

西宮市 総合企画局 青少年施策推進課
(0798-35-3429)

該当する箇所に をつけ、()には言葉を書き入れてください。

・ あなたは 男 ・ 女

・ 出身中学校は () 中学校

・ 成人式に参加しようと思った理由は？(特に強いもの1つを選んでください)

1. 親や友人にすすめられたから
2. 成人式の内容(式典・アトラクション)に関心があったから
3. 正装をして大人になるという実感を味わいたかったから
4. 同級生や友だちに会えるから
5. 人生の節目にしたかったから

・ 成人式の印象は？(1つ選んでください)

1. たいへん良かった
2. 良かった
3. 悪かった
4. たいへん悪かった

V. 来年からの成人式を考える参考にご意見を聞かせてください。

(1) 現在の1カ所での開催についてどう思いますか。(1つ選んでください)

1. 今年と同じ1会場がよい
2. 小学校区単位がよい
3. 中学校区単位がよい
4. 市内7カ所ぐらいの地域単位がよい

(2) 成人式のプログラムとして、どのようなものがよいと思いますか。(複数回答可)

1. 参加者全員で取り組む活動
2. 新成人の意見発表
3. 新成人によるステージ発表
4. 地域の人々のステージ発表
5. 著名人の講演や芸能の鑑賞
6. その他

()

ご協力ありがとうございました。会場内に設置しているアンケート回収箱にお入れください。
ご不用でしたら、クリップペンシルも一緒に、アンケート回収箱にお入れください。

平成24年「成人式」に関するアンケート集計（H24.1.9実施）

出身中学校名

性別

学校名		人数	人数 合計
浜脇中	男	11	15
	女	4	
西宮浜中	男	2	2
	女	0	
大社中	男	7	12
	女	5	
苦楽園中	男	11	17
	女	6	
上ヶ原中	男	9	12
	女	3	
甲陵中	男	17	34
	女	17	
平木中	男	4	10
	女	6	
甲武中	男	9	12
	女	3	
瓦木中	男	6	12
	女	6	
深津中	男	2	10
	女	8	
上甲子園中	男	4	11
	女	7	
今津中	男	4	5
	女	1	
真砂中	男	8	14
	女	6	
鳴尾中	男	10	20
	女	10	
浜甲子園中	男	1	4
	女	3	
鳴尾南中	男	6	12
	女	6	
高須中	男	3	10
	女	7	
学文中	男	14	26
	女	12	
山口中	男	11	19
	女	8	
塩瀬中	男	6	14
	女	8	
私学	男	46	80
	女	34	
無回答	男	7	9
	女	2	
小計	男子計	198	
	女子計	162	
合計		360	

	男		女		合計	回収率
成人式参加人数	-	-	-	-	2736	
回答数	198	55.0%	162	45.0%	360	13.2%

成人式の参加理由（複数回答あり）

	男		女		合計	
1. 親や友人にすすめられたから	41	11.0%	28	7.5%	69	18.6%
2. 成人式の内容(式典・アトラクション)に関心があった	12	3.2%	5	1.3%	17	4.6%
3. 正装をして大人になる実感を味わいたかったから	10	2.7%	14	3.7%	24	6.4%
4. 同級生や友達に会えるから	74	19.9%	87	23.4%	161	43.3%
5. 人生の節目にしたかったから	63	16.9%	33	8.9%	96	25.8%
何となく	1	0.3%	0	0.0%	1	0.3%
無答	4	1.1%	0	0.0%	4	1.1%
計	205		167		372	100.0%

成人式の印象

	男		女		合計	
1. たいへん良かった	29	8.1%	9	2.5%	38	10.6%
2. 良かった	140	38.9%	138	38.3%	278	77.2%
3. 悪かった	17	4.8%	8	2.2%	25	7.0%
4. たいへん悪かった	7	1.9%	1	0.3%	8	2.2%
普通	1	0.3%	2	0.6%	3	0.8%
無回答	4	1.1%	4	1.1%	8	2.2%
計	198		162		360	100.1%

(1) 1カ所での開催について

	男		女		合計	
1. 今年と同じ1会場	126	35.0%	102	28.3%	228	63.3%
2. 小学校区単位	14	3.9%	10	2.8%	24	6.7%
3. 中学校区単位	32	8.9%	15	4.2%	47	13.1%
4. 市内7カ所(地域単位)	24	6.7%	33	9.2%	57	15.8%
無回答	2	0.6%	2	0.6%	4	1.1%
計	198		162		360	100.0%

(2) プログラムについて

	男		女		合計	
1. 参加者全員で取り組む活動	41	9.0%	26	5.7%	67	14.7%
2. 新成人の意見発表	20	4.4%	11	2.4%	31	6.8%
3. 新成人によるステージ発表	26	5.7%	18	4.0%	44	9.7%
4. 地域の人々のステージ発表	20	4.4%	22	4.8%	42	9.2%
5. 著名人の講演や芸能の鑑賞	119	26.1%	92	20.2%	211	46.3%
6. その他	20	4.4%	8	1.8%	28	6.1%
無回答	17	3.7%	16	3.5%	33	7.2%
計	263		193		456	100.0%